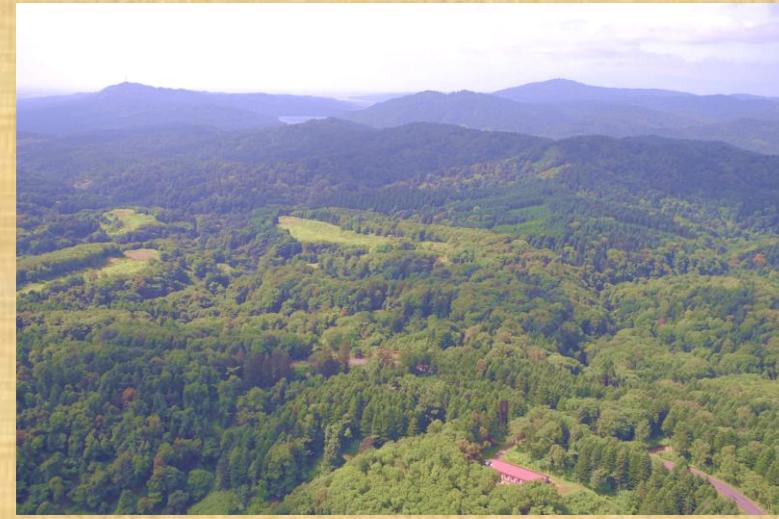


月形の森から ペン立てキットができるまで

このサイトでは、私たち岩見沢農業高校森林科学科の生徒が、月形の森でどのような実習を行い、森からペン立てキットが作成されるのかを紹介します。

○月形演習林について

私たち森林科学科は、月に一度、月形町にある演習林で様々な実習を行っています。面積は186haあり札幌ドーム35個分の広さになっています。演習林内的人工林のほとんどはトドマツで、他にもミズナラやイタヤカエデ、シナノキ、シラカンバなどさまざまな樹木が生えています。



築50年を超える宿舎↑
年に1度は1泊2日の宿泊実習を行います

○演習林実習のようす



春の実習の始まりはご神木であるシナノキへのご挨拶から

森を知るには
まずは歩くことから

草刈りをした後の
山びこ大会!



森の高低差を測る 測量実習

雪の断面を観察

冬の森に寝転び大地を体感

○森づくりのようす



人の植えた木は、人の手によってより良い森に作られています。私たちが育てているトドマツがどのような手入れをし、収穫(伐採)されるのかを紹介します。

【春～植樹】

3年生の5月の実習で植樹を行います。前の年のうちに、自分たちで草を刈り払い、植えやすい状態にした林地に1本1本丁寧にスコップで植えていきます。



【夏～下刈り】

植栽した苗木の周りに生える雑草木を刈り払い、苗木の成長を助けます。暑い中のキツい作業ですが、自分の後ろを振り返ると、仕事の成果が見える達成感のある実習です。苗木が雑草木よりも大きくなったら下刈りは終了します。ここまで植樹を行ってから5～8年かかります。



【秋～枝打ち】

枯れ枝や下の方につく生き枝を切り落とします。節を減らし、年輪の密な価値の高い木材を作るために欠かせない作業です。

また、枝を落とすことで見通しが良くなったり森の中に光が入り、下草が生えるなど、林内の環境も改善されます。



【再び春～間伐】

林内の一部の木を間引き、残された木がより太く成長することを促します。まだ、細い木が多いときはノコギリを使います。

枝打ちや間伐は5～10年おきに定期的に行います。



○いよいよ伐採



トドマツは40年を過ぎた頃から伐採し木材として利用することが可能な太さになります。今回は60年生の木を伐採しました。2年生全員が1本の木を責任を持ってチェーンソーで伐採します。

【伐採】



木を木材として利用するためにチェーンソーで伐り倒します。安全に木を倒すためには、倒れる側の切り口=受け口、倒すのと反対側の切り口=追い口を正確につくる必要があります。安全に伐倒するために、学校で、演習林で何度も練習を重ねます。皆、緊張の面持ちです。

【枝払い】



伐採を無事に終え、ほっとしたのもつかの間、伐採後は、運び出しやすいように枝を落としていきます。トドマツは、枝が車輪状に出ているため、他の樹種に比べ枝払いの手間がかかります。チェーンソーをいかに効率的に動かすかがカギとなります。

【玉切り】



枝払い後は、決まった長さに玉切りを行います。丸太のどこに力がかかるかを見極め、チェーンソーが挟まらないように気を配る必要があります。

伐採がうまくいかないと、他の木に引っかかって倒れない「かかり木」という状態になります。こうなると大変！木にロープをかけ皆で力の限りでひっぱります！



【丸太の運搬】



玉切り後は、みんなで力を合わせてトラックまで運びます。実習の中で一番つらい作業ですが、終わってみると「意外と楽しいかも」と思えるようです。

○丸太から板、製品へ



みんなで力を合わせて運び出した丸太は、学校に運ばれいよいよ板、さらに手を加えペン立てキットになります。

【製材】

製材機で丸太の丸い部分を落とし四角い材にしていきます。ノコギリで薄くスライスするイメージです。山から運ぶのにとても苦労した丸太ですが、この製材機に丸太をセットするのも一苦労です。



【乾燥】

製材した板は反らないように重しをのせ、屋根の下で約1年間自然乾燥させます。

【さらに製材】

1年度、板にかんなをかけ、直角を取り、より薄い板にしていきます。ここは熟練の技が必要なため、先生方の出番です。

【面取り＆溝切り】

いよいよペン立てキットづくりへ！
ルーターという機械で角の面取りとペン立ての底板をはめる溝を作ります。刃が高速回転するため、気が抜けません。



【磨き】

電動サンダーで板の表面をすべすべにします。目指すは、頬ずりしたくなる触り心地です。



【切断】

ペン立ての横板になる部分を電動丸鋸で切断します。こちらも刃が高速回転するため、緊張します。最後にレーザー加工機で印字をし、ペン立てキットの完成です！

